

# 全国中学生人権作文コンテスト 法務事務次官賞受賞!



©MIYAZAKI DAIICHI  
Unauthorized reproduction prohibited

2017  
November  
26

「第37回全国人権作文コンテスト」(法務省主催)において、中学2年生の仲本愛さん(高鍋東小出身)が法務次官賞に選ばれました。このコンテストは人権尊重の重要性・必要性についての理解を深めるとともに、豊かな人権感覚を身につけることを目的として毎年行われているものです。全国96万あまりの応募作品のうち、各都道府県での審査を経た優秀作品102編が中央大会へ推薦されました。

法務次官賞は「主要11作品」に数えられる、特に名誉ある賞。受賞の知らせを聞いた仲本さんは「信じられない。すごくうれしい」と目を輝かせていました。

仲本さんの作文「同じ空の下」は、国際交流事業で韓国に行った経験を踏まえて書かれたもので、来年2月に「第37回全国中学生人権作文コンテスト入賞作文集」にも掲載される予定です。

法務省は24日付で、第37回全国中学生人権作文コンテストの入賞作品を発表した。最優秀の内閣総理大臣賞には神戸市立垂水東中3年、大原佳乃さんの「みんなと一緒が高校生になる」が選ばれた。

難病と闘い、電動車いすで生活する大原さん。自らの努力と周囲の支えで充実した中学生生活を送り、絶対に高校に進学したいと願うものの、受け入れ態勢が整っておらず、

**全国中学生人権作文コンテスト**  
**仲本(宮崎第一)田代(久峰)さん入賞**

宮崎日日新聞  
(11月26日掲載)

選んでできる学校に限られる現実を突き付けられる。「意欲があれば、安心して進学できる支援を受けられる社会になってほしい」と訴えた。

7358校から96万390人が応募。内容別では、いじめが28・5%で最も多かった。戦争・平和が12・2%、障害のある人に関しては10・4%だった。

本県からは、宮崎第一中(宮崎市)2年の仲本愛さんの「同じ空の下」が法務事務次官賞に、久峰中(同)3年の田代紗友里さんの「生きているだけで百点満点。」が奨励賞に選ばれた。